

# 日本最大級の盆梅展 長浜盆梅展



## 長浜盆梅展とは

盆梅展のはじまりは、旧浅井町の高山に住んでおられた高山七蔵氏にそのルーツがある。若い頃から野山で見つけた梅の古木を鉢植えにし、丹精込めて世話をされていた。そして40年近くにわたって育てた盆梅を、昭和26年に長浜市に寄付され、その翌年からその盆梅をもとに長浜盆梅展が始まったのである。

2022年に第71回を迎える盆梅展は、慶雲館で毎年1月初旬から3月初旬にかけて行われる。入館者は北は北海道から南は九州までと、ファンは全国へ広がっている。最近では、日本の美として外国人観光客にも人気である。

盆梅はおよそ3百鉢あり、開花時期に合わせて約90鉢の盆梅が常時展示場に配置されている。ほ場には2千本の梅の木がある。それぞれの梅の木の特性に合わせた管理（水やり、害虫駆除など）が年間を通して行われている。

梅の盆栽は昔から親しまれていたものだが、高さが人の背丈を超えるものは高山七蔵氏が始めたといわれており、長浜盆梅展で展示されるものは、3m近くに及ぶものもある。樹齢は百年を経たものも多く、中には樹齢4百年と伝わるものもある。

## 豆知識

「松竹梅」と縁起のよい木の一つにも数えられる梅は、バラ科サクラ属の植物。花言葉は高潔、忠義。その品種は3百種類以上あると言われているが、主に野梅・緋梅・豊後の3系統に分かれ、そこからさらに9つの性に分類される。それぞれの特徴は表のとおり。

梅の花は品種によって1月頃から5月頃に開花する。花弁の数は一重咲き・八重咲き、花色は紅色・白色と大別できる。

野梅系 やばいけい	原種に近いもので、枝は細く、花も葉も比較的小さい。花の香りが高い。	野梅性 やばいしょう	原種に近く、ときにとげ状の小枝を出す。葉は比較的小さく、毛がない。
		紅筆性 べにふでしょう	つぼみの先が尖っていて紅色をしている。
		難波性 なにわしょう	枝が細く、矮小ぎみ。差し木可能なものが多い。葉は丸葉。
		青軸性 あおじくしょう	ガクと枝が黄緑色をしている。つぼみも緑白色。花は青白色。
緋梅系 ひばいけい	花は紅色がほとんど。しかし、花は白でも古枝の髄が赤ければこの系統に分類される。	紅梅性 こうばいしょう	花色が明るい紅色をしている。
		緋梅性 ひばいしょう	花色が濃い紅色をしている。
		唐梅性 とうばいしょう	花色が薄い紅色をしており、花が古くなると白っぽくなり花弁に脈状の線が出る。
豊後系 ぶんごけい	アンズとの雑種。花はピンクが多く大ぶり。花の香りは低い。	豊後性 ぶんごしょう	アンズとの雑種性が強い。葉は丸葉で大きく、表面に毛がある。
		杏性 あんずしょう	豊後性より枝が細く葉は小さい。葉面に毛はない。

(大坪孝之「よくわかる栽培12か月ウメ」より引用)

## 楽しみ方・みどころ

盆梅は、新春を祝う代表的な盆栽である。

梅の花は香りが高く、つぼみが開き始めると周りに花の香りが漂う。梅の実とはまた違った香りである。また、古木の枝ぶりや佇まいを楽しむのもいい。樹皮は縦に粗く裂け、枯れた佇まいを感じさせるが、それでもなお、毎年花を咲かせる生命力は見ものだ。

展示されている盆梅はそれぞれ命名されており、一緒に展示されている掛け軸や俳句なども合わせた空間全体を楽しんでほしい。

しもぞ餅

柳谷製菓舗

長浜市川道町  
TEL 0749(72)2043